I-OWA マンスリー・セミナー・夏休み特別企画
「大人と子供のためのマネー教室」講演より
ピギーちゃんのハッピー・マネー®教室

講演： 岡本　和久
レポーター： 赤堀　薫里

3 年前、シカゴから来たピギーちゃんは、ブルー、ピンク、グリーン、金色（ブライト・イエロー）と 4 種類の色があります。普通の貯金箱は穴が一つ。ピギーちゃんの背中には四つの穴があり、お腹は四つの部屋に分かれています。四つの部屋は SAVE(ためめる)、SPEND(つかう)、DONATE(ゆずる)、INVEST(ふやす)に分かれ、それぞれに入れたお金は四本の足につながっています。

この貯金箱はマネー・サビー・ジェネレーションという会社が作ったものです。アメリカでは 3 歳から使用するマネー教育素材です。子供たちは、お小遣いを使う時に、四つの用途に分けて使うことを、小さい時から練習をしていきます。

さて、「お金はどうして大切なのでしょう。」お金がないと生活ができません。お金があったら何でも好きなものが買えます。でも、もしお金が沢山あっても、無人島に 1 人で住んでいたら生活できません。

お金は、自分の欲しいものと交換できるからこそ価値があります。お金で買えるものには 2 種類あります。一つ目は、商品（モノ）、二つ目はサービス（必要なことをしてもらえる）が買えます。自分にとって、嬉しいこと、助かることを誰かが与えてくれた時に「ありがたい」と思うので、自分の持っている大事なお金を、相手に渡します。つまり、お金は「感謝のしるし」なのです。

お金はどうして銀行の ATM から出てくるのか考えてみましょう。ある人が、チョコレート会社で働いています。毎日朝から晩まで美味しいチョコレートを一生懸命作っているので、会社は労働に対す

Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
発行人：岡本和久、発行：I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
URL: http://www.i-owa.com；E-mail: info@i-owa.com

る感謝のしるしとして、月給を銀行に振り込みます。だから、ATM からお金が出てくるのです。チョコレート会社は、作ったチョコレートを売るお店にチョコレートを卸します。お店は、このチョコレートで商売ができて嬉しいので、代金を払います。お店にチョコレートを買いに来た人は、美味しいチョコレートが食べられて嬉しいのでお金を払います。このようにお金は、感謝と一緒にぐるぐる世の中を回っています。

みんなが美味しいと思うチョコレートは多くの人が買ってくれます。その結果、その会社には、お金がたくさん集まります。そのお金を使い、もっと美味しいチョコレートを作り、販路も拡大できます。みんなが美味しいと思ってチョコレートを買うことは、実はその会社を応援していることなのです。ちょうど、選挙で投票しているのと同じです。

チョコレートは、カカオで出来ています。カカオの実を取り出して袋に詰めたものを、トラックに載せて港に運びます。港で日本の商社マンがその豆を買いつけ、船で日本まで運びます。港に着くとまたトラックに載せてチョコレートの工場へ運びます。工場でチョコレートを作り、出来たチョコレートをトラックに載せてお店に持って行きます。そこでチョコレートが売られます。板チョコ一枚 100 円の中には、チョコレート作りに関係する全ての人達の「美味しいチョコレートを作りたい」という気持ちが入っています。チョコレートだけではなく我々の生活に必要な品物やサービスの全部が、お金によってつながっています。みんなが協力しあって作っているから我々は生活できるのです。だから、世界は平和でなければいけないのです。

お金はどのようにして出来たのでしょう。お金の歴史を紐解いてみます。お金が無い時代は、自分で作ったもので生活をする自給自足の時代でした。それからお互いが作っているモノを物々交換するようになり、更に大勢の人が集まって、決まった日時に自分の持っているモノを交換する市ができるようになりました。

そして、交換が便利になるようにと、自分が持っているモノをみんながいつも欲しいものに換えておくようになりました。それらは米や、布、綺麗な貝等でした。市の開催時には、お米や布を持って行き、自分の欲しいものと交換します。その後、様々な種類のお金が誕生し、使われるようになりました。その後講演では、銀行ができるまでの歴史や、日銀の役割、金本位制を経て現在の信用に基づく紙幣発行への変遷をわかりやすく解説いただきました。

Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社